



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## はきものをそろえる

校長 道山 正史

このところ、すっきりしない日が続いていますが、ちょうど本稿を考えているときに、6年生が武石移動教室に行っていました。天気予報はあまりすっきりしたものではなく、直前に地震もあって、いつもより緊張感をもって出発をしていました。

ところで、移動教室でどこの学校でも子供たちに指導することの一つに、「はきものをそろえる」ということがあります。靴だけでなく、トイレのスリッパや上履きを使用している場合には部屋の入り口の様子などが指導されます。

長野県の円福寺の住職の藤本幸邦さんは、終戦直後から多くの子供たちを預かり、家族のようにして育ててこられたということですが、玄関の靴が乱れているのを見て次のような詩を作り、子供たちを諭したと伝えられています。

はきものをそろえると 心もそろう  
心がそろうと はきものもそろう  
ぬぐとくにそろえておくと はくとくに心がみだれない  
だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげましょう  
そうすればきっと世界中の人の心もそろうでしょう

自分の靴をまずそろえることが大切であり、それができる人は、他の人の靴をそろえることもできる。トイレのサンダルなども、だれもが次の人のことを考えてそろえることができると、気持ちのよい学校や社会になるということです。6年生は5年生の時の移動教室でこのような指導がなされたことでしょう。ですから今年は、当たり前のように実行している姿が目に見えます。

はきものことだけでなく、休み時間に使ったボールや一輪車などの片付け、そしてあいさつの励行も含め、礼儀正しい言葉遣いや行動が移動教室を一つの機会として、6年生が全校の模範となってくれることでしょう。